

松韻亭日本庭園について

松韻亭の主棟から見渡せる庭園には、茶の湯の主題である奥ゆかしい風雅な趣が漂っています。ここは多種多様な鮮やかで目を奪われるような花の代わりに、緑の草木やより洗練された花を取りそろえています。この庭園を構成する主な要素は 1 年中濃い緑を保つ苔、常緑樹、低木です。小さな敷石が本物の川そっくりにつくった小さな川を横切るように置いてあり、せせらぎの音がのどかな鳥の声に重なります。

夏になると、庭園の中央にある花菖蒲の小さな茂みが満開になりますが、ここでも主となる色は苔や木の鮮やかな緑です。意図的に色を限っており、緑とは対照的な花菖蒲の紫色を引き立たせています。とはいえすべての木が常緑樹なわけではなく、落葉樹の葉は秋に明るく濃い黄色や深紅へと変化するので、秋は松韻亭を訪れる人々にとって人気の季節です。

庭園内は来訪者が散策できるように開放されています。庭園の裏には、主棟の茶室・松韻亭よりも小さな茶室があります。より伝統的な設計で閉鎖的な空間であるこの茶室は、松韻亭の周辺で育ち紫色の花をつける萩にちなみ「萩庵」と名づけられています。